

① 「コロナ禍での不登校の現状と課題」

奈良女子大学大学院
教授 伊藤 美奈子

◎コロナ禍における学校

- 突然の一斉休校から始まり、不安の中での学校再開により、学習の遅れへの対応、行事の削減、ソーシャルディスタンスや黙食、マスクによるコミュニケーションの不安などの課題が見られた。
子どもも不安、親も不安、教師も不安、社会全体の閉塞感やイライラが弱者（子ども）に反映されていく現状が社会全体にあるように感じる。

◎3つの調査の紹介

①兵庫県「コロナ禍における不登校支援に向けて」（2020年11月調査）

★不登校タイプの抽出（小学校5年552人、中学1年1,327人、2年1,364人）

「現在登校群（2,983人）」、「新規不登校群（190人）」、「継続的不登校群（70人）」の3つのタイプに分けて学校が休校中、再開時、現在の生活と気持ちについて回答してもらった。

★休業中（R2年3～5月）の比較

- ・「規則正しい生活を送っていた」⇒登校群は休業中でも比較的、規則正しい生活を送っていたが、不登校群はあまりできていなかった。
- ・「長時間のメール・ゲーム」⇒登校群はメールやゲームの時間は比較的短かったが、不登校が長引くにつれて、メールやゲームの時間も長くなった。
- ・「登校できない不安」や「家にこもる不安」⇒登校群は登校できないことや家にこもることに苦痛を感じているが、不登校が長引いている群ほど、不安は低くなっていた。

★学校再開時（R2年5月末）の比較

- ・「登校できる嬉しさ」、「家にこもらなくていい嬉しさ」⇒登校群には比較的嬉しいという意見が多かったが、不登校群には少なかった。
- ・「分散登校の嬉しさ」⇒登校群よりも、新規不登校群において高かった。継続的不登校群の反応は良くなかった。
- ・「コロナや行事の不安」⇒登校群が高く、不登校群が低かった。
- ・「学業不安」⇒学校再開後、一番不安に感じていたのは新規不登校群であった。現在登校群は少し、継続的不登校群は多少感じていた。

★現在（R2年11月）との比較

- ・「規則正しい生活」⇒登校群は、休業中に比べ大きく改善できていたが、不登校群は休業中と大きく変わらなかった。
- ・「長時間のメールやゲーム」⇒登校群は短くなったが、不登校群になるにつれて長くなっている。
- ・「学校が気になる」⇒1番高かったのは新規不登校群であり、継続的不登校群は低かった。
- ・「コロナや行事が気になる」⇒休業中と同じく登校群は高く、不登校群が低か

った。

- ・「学校が楽しい」⇒大きな群間差があり、登校群は学校が楽しいと感じている児童生徒が多く、不登校群は学校が楽しくないという回答に偏っている。

☆不登校3タイプの休業中と現在の比較

- ・「規則正しい生活」⇒現在登校群と新規不登校群では、休業中に低かったものの、現在は高くなっている（メリハリがある生活）が、継続的不登校群は休業中も現在も生活にあまり変化はない。
- ・「長時間のメールやゲーム」⇒現在登校群と新規不登校群では、休業中に高かったのが現在は低くなっている。継続的不登校群も時間は減ってはいるが、有意差はなかった。

以上の調査より

- | |
|---|
| <p>◇登校群・・・メリハリが大きい。一斉休業になった時は不安だったが、学校が始まると学校に行ける喜びに変わっていった。</p> <p>◇新規不登校群・・・分散登校に適応的だったが、その反面、勉強への不安も抱えていた。</p> <p>◇不登校群・・・一斉休業という非常事態にもあまり大きな変化はなく、登校への評価も楽しいという思いも低かった。</p> |
|---|

②通信制高校における調査結果（2020年6月調査 高校1年生1,317人対象）

☆コロナ休校中の通信制高校の生徒の気持ち（不登校経験あり、なしで比較）

- ・「早く学校に行きたかった」⇒不登校経験ありなしに関わらず高かったが、不登校経験なし群の方がより高かった。
- ・「通学や身支度をしなくていいので楽だった」⇒この気持ちも不登校経験ありなしに関わらず高かったが、不登校経験あり群の方がより高かった。

☆不登校経験の有無による教育活動への評価

- ・不登校経験あるなしに関わらず、オンラインの教育より対面の教育の方が、評価が高かった。特に、「学校に登校すること」、「友達に会えること」、「先生に会えること」、「対面授業」などの評価が高かった。不登校経験がある生徒は、ない生徒に比べて、オンライン教育の「オンライン面談」、「オンラインホームルーム」、「オンライン授業」の評価が高かった。

以上の調査より

- | |
|--|
| <p>◇不登校経験のあるなしに関わらず、学校に行きたい気持ちと、休んで楽だという気持ちは両方ある。しかし、不登校の経験がない生徒は、学校に行きたい気持ちが有意に高く、不登校の経験がある生徒は、学校に行かないのは楽と考えがち。</p> <p>◇両群とも、オンラインより対面授業の方がより高く評価する傾向にあったが、不登校経験のある生徒はなしの生徒に比べ、相対的にオンライン教育への評価が高かったため、不登校支援としてオンラインの教育が突破口の一つになるのではないかとと思われる。</p> |
|--|

③大学生対象の調査（2020年5月調査 1回生390人、2～4回生830人、院生

234人）

☆学年×居住形態による比較（生活と授業）

- ・「大学生活に対する不安」⇒1回生の実家生、下宿寮生ともに高く2回生以上になると、実家、下宿寮ともに低くなる。
- ・「対面授業希望」⇒1回生の実家生、下宿寮生ともに高く、2回生以上になると低くなる。
- ・「遠隔授業評価」⇒1回生であっても2回生以上であっても、実家生であっても下宿寮生であっても、それほど差はない。

☆学年×居住形態による比較（ストレス）

- ・「不安いらいら」⇒学年を越えて、下宿寮生の方がストレスが高い。
- ・「無気力」⇒学年を越えて下宿寮生が高い。1回生より上の学年に多い。
- ・「身体不調」⇒学年を越えて下宿寮生が高い。

以上の調査より

◇大学生活への不安や対面授業の希望は2回生以上より1回生の方が強い。

- ・新入生⇒大学そのものへの不安にプラスしてコロナへの不安、4月に行われるガイダンスも不十分であったことで、大きなストレスを抱えやすかったといえる。

◇ストレスは、実家生より下宿寮生の方が強く抱えている。

- ・下宿寮生⇒実家にも帰れず、友だちにも会えず、アルバイトにも行けない。

以上より、コロナの影響を強く受けるのは新入生と下宿寮生である。

◎コロナ禍と不登校

○さまざまな不登校

- ・休業状態から日常に戻れずに不登校に・・・
- ・分散登校や少人数登校では登校できたが通常登校で不登校に・・・
- ・stay homeが家族のマイナスな人間関係をあぶり出し不登校に・・・
- ・部活動がなくなり、学校へ行く意味を失ってしまい不登校に・・・
- ・学校に行かなくても卒業できるならと考えてしまい不登校に・・・



コロナ禍による社会の変化を受け、不登校もますます多様化、特に「節目の学年」と、「絆の無さ」が不適應のリスクでは？